

平成 30 年 3 月 5 日
住友生命保険相互会社

文部科学省・厚生労働省後援 住友生命社会貢献事業 第 11 回『未来を強くする子育てプロジェクト』受賞者決定

【子育て支援活動の表彰】

- スミセイ未来大賞・文部科学大臣賞 1 組
「非行」と向き合う親たちの会（通称：あめあがりの会）（東京都新宿区）
～子どもの非行に悩む親同士が支え合う活動～
- スミセイ未来大賞・厚生労働大臣賞 1 組
認定 NPO 法人 CAPNA（愛知県名古屋市）
～子ども虐待防止のための電話・メール相談～
- スミセイ未来賞 10 組

【女性研究者への支援】

- スミセイ女性研究者奨励賞 10 名

※受賞者一覧は次項をご参照ください

住友生命保険相互会社（社長 橋本雅博）は、平成 19 年からより良い子育て環境の整備にむけた「未来を強くする子育てプロジェクト」に取り組んでおります。

本プロジェクトでは、より良い子育て環境づくりに取り組み、優れた成果を上げている団体や個人に贈る「子育て支援活動の表彰」と、人文・社会科学分野を専攻し、現在子育て中の女性研究者を支援する「女性研究者への支援」の公募事業を実施しており、これまで過去 10 回の表彰を通じて、110 組の子育て支援活動と、101 名の女性研究者への支援を行ってまいりました。

第 11 回目となる本年度は、子育て支援に資する諸活動を行っている団体・個人 231 組、育児を行いながら研究を続けている女性研究者 140 名の応募の中から、以下のとおり 12 組の活動と、10 名の研究者支援を決定いたしました。

また、表彰式は平成 30 年 3 月 12 日（月）に野村コンファレンスプラザ日本橋にて開催いたします。

各募集事業の概要・受賞者については、次頁の通りです。

＜第 11 回『未来を強くする子育てプロジェクト』受賞者一覧＞

◎子育て支援活動の表彰 12 組

【スミセイ未来大賞・文部科学大臣賞】

- 「非行」と向き合う親たちの会（通称：あめあがりの会）（東京都新宿区）

【スミセイ未来大賞・厚生労働大臣賞】

- 認定 NPO 法人 CAPNA（愛知県名古屋市）

【スミセイ未来賞】

- NPO 法人 オルタナティブビレッジ（兵庫県神戸市）
■かるがもの会（新潟県新潟市）
■特定非営利活動法人 キャリア教育研究所ドリームゲート（静岡県磐田市）
■子ども夢フォーラム（石川県金沢市）
■「生」教育助産師グループ OHANA（愛知県一宮市）
■特定非営利活動法人 チームふくしま（福島県福島市）
■童楽寺ホーム（和歌山県伊都郡）
■特定非営利活動法人 なかのドリーム（東京都中野区）
■星の会(不登校を考える親の会)（大分県大分市）
■特定非営利活動法人 レイボーチェ（東京都板橋区）

◎女性研究者への支援 10 名

【スミセイ女性研究者奨励賞】

- 飯尾 真貴子さん（東京都調布市）
■石井 裕美さん（東京都板橋区）
■海野 歩未さん（デンマーク）
■小松 恭子さん（神奈川県川崎市）
■斎藤 みほさん（東京都日野市）
■白幡 真紀さん（秋田県由利本荘市）
■田中 亜以子さん（京都府向日市）
■張 文婷さん（新潟県新潟市西区）
■秦 恭子さん（福島県河沼郡）
■山本 直子さん（東京都江東区）

◎子育て支援活動の表彰 12 組

スミセイ未来大賞 2 組

文部科学大臣賞

■「非行」と向き合う親たちの会 （通称：あめあがりの会） （東京都新宿区）

思いがけないわが子の「非行」の悩みを、親同士が集まり実体験を語り合い、ともに支え合う活動

わが子の「非行」に直面したことをきっかけに、同じ悩みを抱える人たちが集まれる場をつくりたいと、立ち上げた会です。孤立しつつも懸命に困難と向き合う人たちが全国にたくさんいることを知り、「こんな場所がほしかった」という切実な声が、活動を続ける大きな推進力となり、現在は 650 名の会員が支え合い学び合っています。



都内および近郊で毎月「例会」を開催しています。そこでは、参加者同士が自らの体験や悩みを、成功談も失敗談も率直に語り合います。つらい時期を乗り越えた体験や子どもとの関係を改善するための秘訣などは、実体験に基づくだけに、悩みを抱える親に大きな励ましや気づきをもたらしています。また、例会にこられない人たちとも心がつながるように、会報「あめあがり通信」を発行してさまざまな情報を伝えています。

厚生労働大臣賞

■認定 NPO 法人 CAPNA （愛知県名古屋市）

虐待防止に関わる幅広い子育て支援活動を、行政や専門職と協力しながら取り組む

子どもの虐待が社会問題として注目され始めた 1990 年代に、児童養護施設代表、児童福祉司、弁護士などさまざまな立場で子どもの問題に関わるメンバーが中心となって立ち上げた団体です。愛知県では児童相談所への相談件数が増加傾向にあり、子育てに対して不安や悩みを抱える養育者も少なくありません。



団体設立当初から継続して行っている電話相談「CAPNA ホットライン」、現在はメール相談にも対応しています。虐待のほか妊娠、出産、子育てに関するさまざまな悩みや苦しみを抱えた方から、日々相談が寄せられます。

これまで、虐待死に関するデータブックの発行や DV 被害者のためのシェルター運営など、活動の幅を広げてきました。近年では、新生児の特別養子縁組の普及や、安全委員会方式による施設内での虐待防止にも力を入れています。

■ 特定非営利活動法人 オルタナティブビレッジ （兵庫県神戸市）

古民家を改装した「サトノマ」を拠点に、家族向けの農業・里山体験プログラムを実施

子どもも大人も楽しめる農業・里山体験を、一年の四季を感じてもらうための年間プログラムとして提供しています。コミュニティで支え合いながら、自然に囲まれて子育てができる環境を理想とする私たちの活動には、障がい者も健常者も分け隔てなく誰でも参加することができます。さまざまな可能性を秘めた「農」を通じて、食や環境についてを学びながら、持続可能なコミュニティづくりを確立することが目標です。



■ かるがもの会 （新潟県新潟市）

全国の視覚障がいを持つ親やその家族がつながり、子育てや暮らしの悩みを共有・解決できる場を提供

多くの困難を抱える視覚障がいを持つ親同士が支え合い、孤立と不安を脱して楽しく子育てしようと「かるがもの会」は生まれました。新聞による会員への情報発信からはじめ、IT 時代の今、電話会議システムやメーリングリストを利用し、全国の会員がリアルタイムで互いの悩み、思いを話し、受け止め、問題解決に努めています。また、長年続けている年に 1 回の総会では、全国の親子がそのつながりをより確かなものにしていきます。



■ 特定非営利活動法人 キャリア教育研究所ドリームゲート （静岡県磐田市）

「お仕事体験わくわくワーク」をはじめ、地域の小学生を対象にしたユニークなキャリア教育プログラムを実施

将来社会に出たときに必要な「社会人基礎力」を身につけ、自分なりの「幸せな大人」像を考えてもらうキャリア教育プログラムを、地域と連携しながら行っています。小学校高学年を対象にした「お仕事体験わくわくワーク」もその一つです。楽しいだけの職業体験に留まらず、事前研修や PR ポスターの制作などを通じて、仕事の魅力や本質を子どもたち自ら考え、学べる点が大きな特徴です。「夏休み寺子屋」や中学生・高校生の授業も展開中です。



■子ども夢フォーラム （石川県金沢市）

子ども専用電話を通じて子どもたちの気持ちに寄り添い、そこで得た気づきを社会に向けて発信

子どもたちを取り巻く問題が複雑に絡み合い、深刻化する現在、自分の感情を整理できずにいる子どもたちが数多くいます。「チャイルドライン」は子どもの声を受けとめる専用電話のことです。子どもの声を受けとめる「受け手」は、子どもたちの話に耳を傾け、その気持ちに寄り添います。そして、子どもたちが自分の抱える問題に自分自身で答えを導き出せるよう、子どものペースでともに考え、応援するスタンスを大切にしています。



■「生」教育助産師グループ OHANA （愛知県一宮市）

学校や公共施設に出張し、助産師の視点から子どもたちやその親に命の大切さを伝える活動

「いのちの出張授業」では「性」だけでなく「生」教育の視点も盛り込み、出産や命の尊さを伝えることで、子どもたちの自己肯定感の向上につなげています。こうした活動は口コミで広がり、多くの学校から授業の開催依頼をいただいています。多彩な専門分野の助産師が強みを活かして、各学校の状況や要望に即した多様なテーマの授業に対応しており、私たちの活動の大きな特徴になっています。



■特定非営利活動法人 チームふくしま （福島県福島市）

未来ある子どもたちのために、

ひまわりを通じて福島と全国を結ぶ「福島ひまわり里親プロジェクト」

ひまわりの種を購入して育ててもらう「里親」を全国で募集し、採取した種を福島県に送り返してもらい、県内で花を咲かせる「福島ひまわり里親プロジェクト」。そして、各地区の代表者がプロジェクトにまつわる物語を披露する「ひまわり甲子園」などを通じて、福島と全国の絆は着実に育まれています。大勢の「里親」から贈られたひまわりの種は復興のシンボルとして、ここ福島の地で毎年、希望の花を咲かせています。



■ 童楽寺ホーム （和歌山県伊都郡）

限界集落の兆しが見える地域で、里親プログラムを中心とした「現代版寺子屋」

過疎化が進む集落の活気を取り戻すため、地域の人たちやボランティアの協力を得ながら、「現代版寺子屋」としてファミリーホームを開設・運営しています。和歌山県かつらぎ町は西日本で初めて山村留学を行った場所であり、地域全体で子どもたちを見守り育てる懐の深い土壌が育まれているのだと思います。ここでは、預かっている子どもたちも地区の子どもたちも一緒になって、地域の行事や子ども会活動を楽しんでいます。



■ 特定非営利活動法人 なかのドリーム （東京都中野区）

重症心身障がい児の通所事業「おでんくらぶ」や
訪問介護事業「なべ」を運営、幅広く障がい児者支援

「おでんくらぶ」は、重症心身障がい児の親が主体となって立ち上げた1歳～18歳までの通所事業。看護師が常駐するなど医療的ケアにも力を入れ、保育園や学童保育では受け入れが難しい重度の障がい児や、学校に通えない子どもたちの預かりにも対応しています。こうした活動はモデル事業として区内外から注目を集め、行政からの問合せや見学希望なども多く寄せられています。



■ 星の会(不登校を考える親の会) （大分県大分市）

大分県内5カ所で毎月開催している例会を通じて、不登校の子を持つ親たちを支える活動

星の会では、不登校の子どもを持つ親たちの「心を聴く」ことに重点を置いています。「心を聴く」とは溜め込んでいる感情を吐き出してもらい、それを受け止めることであり、アドバイスして解決の方向性を示すアプローチとは一線を画します。活動の性質上、各々の家庭における成果を数値ではかることは難しいのですが、私たちの活動が行政をも巻き込み県内全域にまで広がったことは大きな成果だと考えています。



■ 特定非営利活動法人 レイボーチェ （東京都板橋区）

フェアトレードを活用し、子ども食堂への支援と東南アジアの貧困支援を同時に実現

地域の子ども食堂と、社会貢献に取り組みたい飲食店をつなぐお手伝いを展開。飲食店が開発・提供する支援メニュー1食ごとに子ども食堂へ100円寄付されるシンプルな仕組みが好評で、多くの店舗に参加・協力をいただいています。貧困対策としての側面に加えて、多世代が集う子ども食堂は地域を活性化するコミュニティにもなると信じ、この活動を力強く推し進めています。



◎ 女性研究者への支援 10 名

スミセイ女性研究者奨励賞 10 名

■飯尾 真貴子^{いとお まきこ}：一橋大学大学院 社会学研究科

<研究テーマ>

米国トランプ政権下における移民政策の転換と移民家族・コミュニティへの影響

■石井 裕美^{いしい ひろみ}：上智大学大学院 総合人間科学研究科

<研究テーマ>

乳児を対象とした簡易な気質評価質問紙作成の試みとその活用について
：4 カ月健診・6 カ月健診における育児困難スクリーニングを目指して

■海野 歩未^{うみの あゆみ}：コペンハーゲン大学 社会科学部心理学科

<研究テーマ>

神経多様性という考え方による子どもの能力促進に向けた教育的アプローチ
ー子どものウェルビーイング、社会性およびインクルーシブ教育への効果ー

■小松 恭子^{こまつ きょうこ}：お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科

<研究テーマ>

専門的能力の獲得が女性のキャリア形成に与える影響についてー職業別特性に着目して

■斎藤 みほ^{さいとう}：立命館大学衣笠総合研究機構

<研究テーマ>

昔話の語り聞かせにみる世代間交流と「語り」によるコミュニケーション

■白幡 真紀^{しらはた まき}：東北大学大学院 教育学研究科

<研究テーマ>

イギリスにおける特別な教育的支援の必要な(Special Educational Needs)生徒に対する
キャリア支援に関する調査研究

■田中 亜以子^{たなか あいこ}：関西学院大学 社会学部

<研究テーマ>

「楽しいもの」としての子育ての登場ー1980 年代以降の日本社会に着目して

■張 文婷^{ちよう ぶんてい}：新潟大学 現代社会文化研究科

<研究テーマ>

東アジアの化粧品コマーシャルの国際比較
ー日本・中国・韓国・台湾の女性美の表現分析を通して

■秦 恭子^{はた きょうこ}：九州大学大学院 統合新領域学府

<研究テーマ>

子どもの中の伝承的/普遍的イメージの研究ーつながりの実感をはぐくむ国語教育のために

■山本 直子^{やまもと なおこ}：大阪経済法科大学 アジア太平洋研究センター

<研究テーマ>

日本における外国人住民のトランスナショナルな交流が第二世代の同化過程に与える
影響に関する考察

<住友生命社会貢献事業『第 11 回未来を強くする子育てプロジェクト』概要>

主催： 住友生命保険相互会社

後援： 文部科学省、厚生労働省

審査員： 選考委員長 ^{し お み と し ゆ き} 汐見 稔幸氏 （白梅学園大学学長・東京大学名誉教授）

選考委員 ^{お お ひ な た ま さ み} 大日向 雅美氏 （恵泉女学園大学学長）

^{お く や ま ち づ こ} 奥山 千鶴子氏 （特定非営利活動法人びーのびーの理事長）

^{よ ね だ さ ち こ} 米田 佐知子氏 （子どもの未来サポートオフィス代表）

^{こ が わ ひ さ と} 古河 久人 （住友生命保険相互会社 執行役常務）

【子育て支援活動の表彰】

募集内容： より良い子育て環境づくりに取り組む個人・団体を募集します。各地域の参考になる特徴的な子育て支援活動を社会に広く紹介し、他地域への普及を促すことで、子育て環境を整備し、子育て不安を払拭することを目的としています。

応募要件： ◆子育て支援に資する諸活動を継続的にやっていること。

◆活動内容が社会に認められ、ロールモデルとなりうるものであること。

◆活動の公表を了承していただける個人・団体であること。

◆日本国内で活動している個人・団体であること。

表彰： ◆文部科学大臣賞（スミセイ未来大賞受賞者の1組に授与）／表彰状

◆厚生労働大臣賞（スミセイ未来大賞受賞者の1組に授与）／表彰状

◆スミセイ未来大賞 2組 ／表彰状、副賞 100万円

◆スミセイ未来賞 10組 ／表彰状、副賞 50万円

応募数： 計 231 組

【女性研究者への支援】

募集内容： 育児のため研究の継続が困難となっている女性研究者および、育児を行いながら研究を続けている女性研究者が、研究環境や生活環境を維持・継続するための助成金を支給します。人文・社会科学分野における萌芽的な研究の発展に期待する助成です。

応募要件： ◆人文・社会科学分野の領域で、有意義な研究テーマを持っていること。

◆原則として、応募時点で未就学児（小学校就学前の幼児）の育児を行っていること。

◆原則として、修士課程資格取得者または、博士課程在籍・資格取得者であること。

◆2名以上の推薦者がいること（うち1名は、従事した、または従事する大学・研究所等の指導教官または所属長であることが必須）。

◆現在、大学・研究所等に在籍しているか、その意向があること。

◆支援を受ける年度に、他の顕彰制度、助成制度で個人を対象とした研究助成を受けていないこと（科研費・育児休業給付などは受給していても応募いただけます）。

※この事業では、過去の実績ではなく、子育てをしながら研究者として成長していく方を支援したいと考えています。そのため、研究内容のみで判断することはありません。

※国籍は問いませんが、応募資料等への記載は日本語に限りません。

表彰： ◆スミセイ女性研究者奨励賞 10名 ／表彰状、助成金 1年間 100万円（上限）を最大 2年間支給。

※支給期間は平成 30 年 4 月から平成 32 年 3 月までの 2 年間

応募数： 計 140 名